平成30年度 第1回保健医療対策協議会議事録

1 開催日時 平成30年11月1日（木） 14時00分～15時10分

2 開催場所 横須賀市保健所 第1研修室

3 出席者【委員】

伊藤学、遠藤千洋、嘉山静子、木村麻美子、佐藤正高
澄川貞介、高橋達也、張学金、平嶺春美、松本好史、宮田和彦
（敬称略、五十音順）

【事務局】

内田康之 : 健康部長
小林利彰 : 保健所長
脇 範泰 : 健康総務課長
椿 雄一 : 市立病院担当課長
梅澤徳之 : 保健所健康づくり課長
草野純也 : 保健所生涯現役推進担当課長
石川智美 : 保健所生活衛生課長
島田恵子 : 健康総務課総務係長
長倉克巳 : 健康総務課主任

4 開 会

事務局（健康総務課長）が司会となり開会した。

- ・一般傍聴報告にて、一般傍聴者なしの旨を報告した。
- ・内田健康部長のあいさつ
- ・委員・事務局紹介
- ・資料の確認
- ・出席委員数の確認にて、半数以上の出席により、会議が成立している旨を報告した。

5 報告事項

委員長が議長となり会議を進行した。
議事事項はなく、次の報告を行った。

- (1) 平成30年度横須賀市健康増進計画・食育推進計画専門部会の報告について
事務局（保健所生涯現役推進担当課長）が資料3-1、資料3-2、当日配布の「健康・食育推進プランよこすか」に基づき、平成30年8月2日に開催した専門部会の報告、健康増進計画・食育推進計画の平成29年度進捗状況と平成30年度取り組み等、報告を行った。
- (2) 横須賀市自殺対策計画策定について
事務局（保健所健康づくり課長）が資料4に基づいて報告した。
横須賀市自殺対策計画策定委員会第5回の日程が11月2日に確定したことを追加報告した。
- (3) 健康増進法の改正について
事務局（保健所生涯現役推進担当課長）が資料5に基づいて報告した。
- (4) 住宅宿泊事業法に関する状況について
事務局（保健所生活衛生課長）が資料6-1、資料6-2に基づいて報告した。
- (5) うわまち病院の建替え経緯等についての説明会について
次第にはなかったが、事務局（健康部長）が資料7に基づいて報告した。

6 質疑応答

- ・横須賀市自殺対策計画策定について

【委員】

横須賀市自殺対策計画策定委員会の会議の内容はホームページで見られるのか？またパブコメもホームページからアクセスするのか？

【事務局】

まだ開始されていないが開始時にあげさせていただく。また行政センター、ウエルシティ等で資料を配布する。

【委員】

計画の目標である自殺死亡率は2015年から2016年では減っているが、2017年はもっと減っているのか。

【事務局】

厚生労働省の統計は直近が2016年（平成28年）となる。数値のとらえ方は異なるが、参考までに、警察庁の統計によると2015年は75人、2016年は57人、2017年は78人となっている。

【委員】

必ずしも減少しているのではないのか。

【事務局】

以前に全国で自殺者が3万人を超えていた時期には、横須賀市も数値が高く、一時期の100人を超えていたところに比べれば最近は減少傾向である。常に増減の振れがありながら推移している。

【委員】

自殺者の年齢はどうか。

【事務局】

横須賀市では60歳から69歳の方が、統計上、平成21年から29年の合計の数値で最も多くなっている。

【委員】

10代20代はそれほど多くはないのか。

【事務局】

人数的には多くはないが、病気で亡くなる方が少ない中で、平成28年度の死亡原因では一番になる。

・健康増進法の改正について

【委員】

確か当初はオリンピックに備えて飲食店は全面禁煙で検討されていたが、自民党議員等の反対があったため、一部では吸うことができることとなり、オリンピックが始まって、店によっては喫煙室があれば吸うことができるというような状況ですか。

【事務局】

経過措置で100平米以下の小規模飲食店については禁煙か喫煙可能か店主は選べることになっているが、当店は喫煙可能ですということをしちんと出さなければならぬ。この取り扱いがいつまでなのか、経過措置の終わりはまだ示されていない。

・住宅宿泊事業法に関する状況について

【委員】

神奈川県には簡易宿所が増えてきているということだが、そちらへ入るよう規制をきちんとしてやればお客も周りも安心だと思うが。テレビなどで見ると、普通の民泊にはいろいろ弊害あるとされている。

簡易宿所は一般のホテル旅館とはまた違う組合もあり、しっかりした経営をしている。

【事務局】

本来であれば旅館業法に基づく許可を取って宿泊していただきたいという思いがある。

簡易宿所というのは神奈川県独自のものではなく、旅館業法の中にきちんと謳われている。旅館業法によると許可を取ることができる用途地域が決められており、住居専用地域では許可を取ることができない。横須賀市は市街化区域の6割を住居専用地域が占めているため、市内で家が建てられるような場所の6割は旅館を建てられない状況となっている。商業地域などでは旅館を建てられるが、住居専用地域で、たとえば実家が空き家になっていてもつたいないので使いたいとき、旅館の許可は取れないが、民泊の制度を利用すれば一年で180日間、一年のうち半分は民泊として使うことができる。住んでいるまわりの方からすれば規制してもらいたいという思いがあるかもしれないが、旅館の許可が取れない地域でも外国人の方も泊められるようにして、インバウンドを受け入れようという制度である。

【委員】

宿としての場所を確保することが先行している状態ですね。衛生面などの問題がおざなりになってしまう。

【事務局】

そうならないために届出をしてもらい、まわりの住民の相談には消防や警察、庁内の他部署と協力をしていく。

【委員】

宿泊業の経営者がその場にいない宿泊所に泊まる場合、いろいろ問題が生じるのではないか。

【事務局】

心配だと言われているのは同居型でない場合だが、その場合必ず管理者を置き、家の外には緊急時の連絡先を記載した青い家のマークを見えるように掲示し、何か問題が生じたら30分以内に駆けつけることになっている。たとえば夜騒いでいるなどの場合、連絡をすれば30分以内に駆けつけることになっている。

【委員】

確実にそのような設置がないとできないことになっているのか。

【事務局】

生活衛生課では届出施設にそのような掲示がなされているか確認に回っているところである。

- ・うわまち病院の建替え経緯等についての説明会について

【委員】

移転と市長が発表したわけだから、建替えという使い方はあくまで現地で建替えをさすので移転候補地というようにしたほうがよいのではないか。

【事務局】

まずは地元の方を中心に建替えを主に考えてきたが、移転をせざるを得なくなったため、今後はおっしゃるとおり資料などについて移転候補地とさせていただく。

【委員】

市民の反応としては、今はうわまち病院は便利な場所にあるが、今後遠くに移転する可能性もあるなかで、それは困るなどの意見はなかったのか。

【事務局】

地元に対して説明している限りでは、商店の方が多くいらっしゃるので病院が移転することによって売上が落ちるので移転は困る、現地建替えの方法をもう一度考えてほしいとのご意見をいただいている。しかし 時間的な問題など制約がある中では難しくご理解をいただきたいとご説明をしている。

【委員】

移転の予定地に見込みがあって市長の発表に結びついたのでなく、候補地は出ているが重点的な候補地が決まってない段階で、今年度中に決まるということか。

【事務局】

そうです。特に間違えられるが、タウンニュースなどにいろいろ書かれているが、今のところ全くの白紙であり、今は候補となる土地を挙げている段階である。

【委員】

ここまで移転と決めるならばあらかじめ想定して久里浜の日産マリノスに譲った土地を残しておくなど考えはなかったのか。

【事務局】

実際マリノスの練習用地を決定する際にはまだ答申が出ていなかった。

市長も現地建替えを第一に考えていた。その時点ではそのようにはいたらなかった。

・その他

【委員】

健康寿命の増進について、2、3か月前のNHKの番組で各都道府県、市町村の健康寿命を調べてビックデータを取ったが、健康寿命の中心に来るものは図書館の多さ、図書館の利便性ということだった。また健康寿命の短いところのビックデータは犯罪数だった。ぜひ参考にされたい。

7 閉会

事務局から連絡事項を伝達し、委員長が会議を閉会した。

※この議事録は、委員等の発言を事務局において要点筆記したものです。